

交流・共同学習の記録

1. 学校名, 授業者名

- ・自校 横手市立栄小学校 渡部芳子
- ・相手校 由利本荘市立鶴舞小学校 小野 哲

2. 学年, 組

- ・自校 5年1・2組
- ・相手校 5年 松組

3. 交流, 共同学習のねらい

- ・水産業の学習は、海から遠く離れた栄小学校の子どもたちにはなかなかイメージがつかみずらい面がある。そこで、今回の地域の人々を交えた実践は、初め教科書やインターネットを活用して水産業の学習を進め、さらに学習したことをもとに、実際に漁業に携わっている人からお話を聞き、秋田県の水産業の現状を考えることで、身近な学習としてとらえさせることをねらいとした。そのため、海に近い鶴舞小学校と連携し、漁業関係者を紹介してもらって共同学習を行うことにした。

4. 学校外の人に TV 会議システム利用を広げるねらい (必要性)

- ・学校外の支援者 本荘市内在住の漁業関係者

・ねらい

水産業の学習を通して生まれた疑問について回答を含めながら、秋田県の漁業について説明をしてもらう。海から遠い地域にとって見つけられない人材を、一方の学校が招くことで共有し合い、共同学習をすることで学習の深まりをねらうことができる。

5. 実 際

(1) 教科, 単元名

- ・社会科 「水産業を支える人々」

(2) 本時のねらい

- ・漁業に携わっている人から直接話を聞くことで、より身近に漁業の現状やそこで働く人々の努力や思いを知ることができる。

(3) 本時の実際

学習活動	教師や漁業関係者の支援
1. 本時の学習の確認をする。	・栄小が主担当で学習を進める。
2. 講師の先生の紹介を聞く。	・講師の先生の紹介とお話しの所は、鶴舞小の先生に担当をしていただく。 ・漁業関係者の方に事前に自己紹介をお願いしておく。

3. 講師の先生のお話を聞く。
- ・何漁業が多いか。(沖合とか沿岸とか)
 - ・一番多くとれる魚は何か。
 - ・季節ごとにとれる魚の量はどれくらいか。
 - ・漁業をやっている大変なことはどんなことか。

4. 講師の先生に質問をする。

5. 感想発表をする。

- ・児童の質問事項をもとに、漁業についてのお話しをしていただく。
- ・児童はメモをとりながら話を聞くようにさせる。

- ・栄小から質問をし、次に鶴舞小が質問するようにする。

- ・今日の学習で初めて知ったことや分かったことなどをシートに書かせ発表させる。



6. 実践を通しての提言

自校の地域で探せない支援者を相手校から紹介してもらい、教科書やインターネットでも解決できない疑問に答えてもらったり、直接秋田県の漁業の話をお聞かせしてもらったりしたことは、児童にとって大変貴重な経験だった。この経験によって、海から遠い栄小学校の児童は漁業について具体的なイメージをつかむことができた。また、地域の支援者とTV会議システムを通して直接会話したり、その支援者を両校で活用し共同学習を組みながら考えを交流させたりできたことは、学習に深まりや広がりを持たせることができ、TV会議システムを活用するメリットといえる。

漁業は時期によって忙しさが違うので、予めそら辺の情報をつかんで学習の計画を立てないと、支援者に協力していただけないこともあるので、気をつけなければならないことも分かった。